

5年から10年以内に

原発から撤退を

“安全な原発”はひとつもない 今こそ撤退へ政治的決断を

いまの原発技術は、本質的に未完成で危険なものです。世界有数の地震国の日本。「安全だ」と断言できる原発はひとつもありません。特に京都に隣接する福井県若狭湾には「もんじゅ」を含め14の原発が立地し、極めて危険です。

いま必要なのは、原発からの撤退を政治が決断し、原発ゼロへのプログラムを策定することです。日本共産党京都府議員団は府内の市町村議員団や関西各地の議員団とともに、原発ゼロ、若狭湾の原発群の撤廃を求めています。

5～10年以内に原発ゼロへ

- 危険な原発
福島・浜岡・もんじゅ…
- 老朽化原発
40年以上3基
30年～39年 16基
- 住民合意なし
過酷事故の被害や避難を考えて



独立した規制機関を

自然エネルギーの本格的導入

- 自然エネルギーの可能性に挑戦
(環境省、NEDO)
可能な資源量 20億kw
||
原発の約40倍
発電設備の約10倍
- 新しい仕事と雇用の創出

エネルギー浪費型社会から転換



「原発ゼロ」署名訴え
四条河原町

自然エネルギーの開発で、 発電能力は“原発の40倍”に

日本共産党は、政府が「5年から10年以内を目標に原発から撤退する計画」をつくるよう提案。原発ゼロを求める署名に取り組んでいます。

原発を全部止めても、発電量は1990年と同じ水準です。いま動いている原発は、54基のうち3分の1に過ぎません。原発からの撤退を決断してこそ、自然エネルギーの開

発・普及と、エネルギーを浪費しない社会への本格的な取り組みがすすみます。日本にある太陽光、水力、風力、地熱など豊かな自然エネルギーには、原発の40倍の発電能力がある、と政府も認めています。自然エネルギーの本格的導入は、新たな仕事と雇用をつくりだし、地域経済の振興と、日本経済への大きな力にもなります。

世界の流れは

イタリア	国民投票で94%が廃止に賛成
ドイツ	2022年までにすべての原発停止
スイス	2034年には原発から撤退する計画

震災対策と原発ゼロ実現へ全力 共産党府会議員団

震災の京都経済への影響を調査

震災は京都経済にも重大な影響を与えています。党府議員団は4月以来、全員が手分けして、府内の経済団体や伝統産業関係団体などを訪問、実情を聞き取りました。

販売先や取引先に大きな被害が出ているだけでなく、資材不足や風評被害など多くの企業や業者が被害を受けており、緊急の対策が要望されました。議員団は調査をふまえ、緊急対策を求める申し入れを行ないました。



関西電力に原発からの撤退とエネルギー政策の転換を求め申し入れ

府議員団は5月31日、府内26市町村の党議員団と連名で、関西電力株式会社京都支店に対し、原発からの撤退と安全対策の抜本的強化、エネルギー政策の転換を要求する申し入れを行ないました。さらに、6月13日には、関西電力の本社に近畿各県の議員団とともに申し入れを行ないました。



日本共産党 原発廃止提案と議会活動報告会

報告者：日本共産党府会議員団長 前達義由紀 日本共産党衆院議員 笠井 亮

京都市内・南部 7月18日(月・祝) 午後4時 シルクホール
 北 部 7月18日(月・祝) 午前11時 綾部市民文化ホール

参加無料



若狭湾の原発群

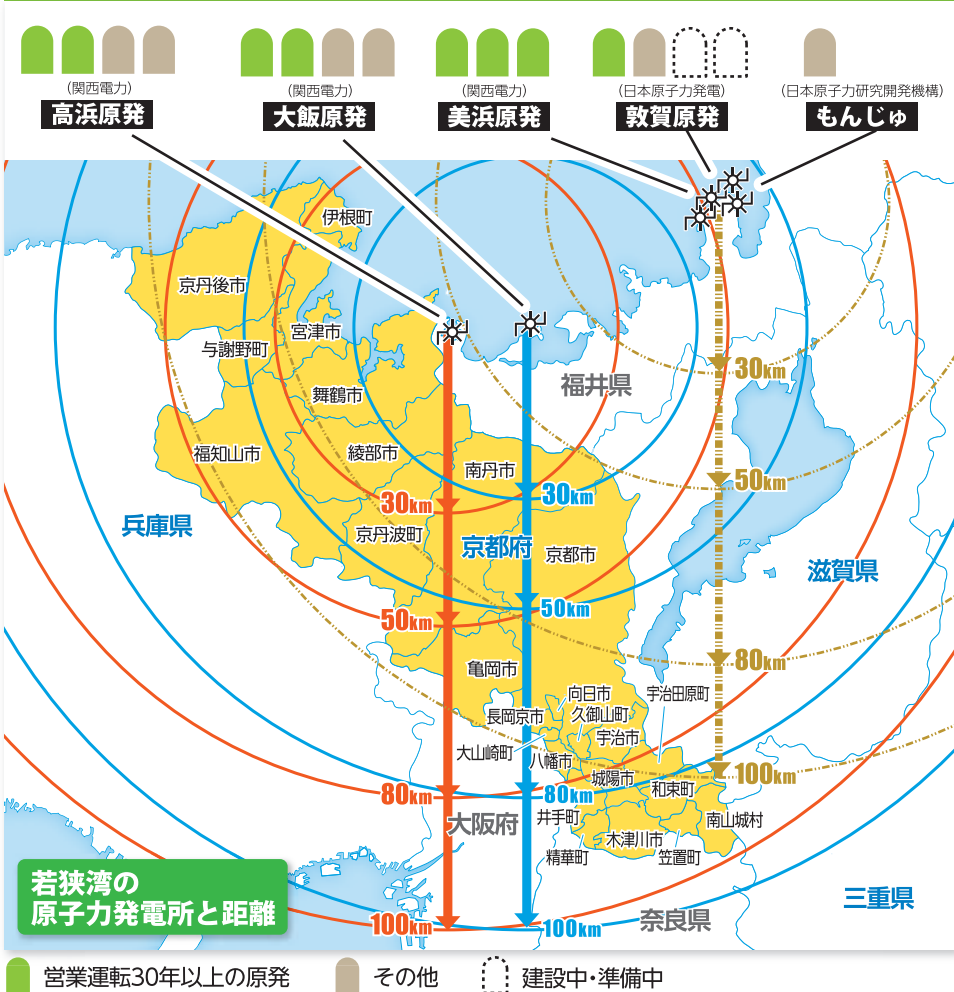
事故が起きれば 京都府域全体に甚大な影響

世界で最も集中

京都に隣接する福井県若狭湾には、関西電力が11基、日本原電が2基、計13基の商業原子炉が稼働しています。実に日本の原発の約四分の一が集中。また、ナトリウム漏れの重大事故を起こした高速増殖炉「もんじゅ」があり、さらに日本原電敦賀3号機、4号機の2基が新たに建設中です。若狭湾の原発群は、世界的にも集中して立地している原発であり、一つの事故が全体に波及しかねない危険性を持っています。



もんじゅを調査する党議員団



1300万人の生活が危機に 関西の命の水源・琵琶湖まで30キロ圏

原発群から関西全体を支える命の水源である琵琶湖までは30キロ、汚染されれば京都だけでなく、滋賀、大阪など関西全体1300万人以上の命と暮らしが脅かされます。

1 地震と活断層、津波の可能性

ただちに調査を

■「世界で活断層から1km以内に原発があるのはもんじゅ、敦賀、美浜の三つだけ」

5月11日の衆院経済産業委員会で、共産党の吉井英勝議員の質問に、原子力安全・保安院の寺坂信昭院長は、「世界で活断層から1km以内に原発があるのはもんじゅ、敦賀、美浜の三つだけ」

と答弁。日本海側の地震については、いまだ実態調査も含め研究が進められておらず、関西電力の津波や地震想定は極めて不十分です。

2 30年を超えた老朽原発が8基 その内40年超えは2基

危険な老朽原発はストップを

もんじゅを含めた14基の原発のうち、稼働後30年を超えた老朽原発が8基、そのうち40年を超えたものが2基。原発の税制上の減価償却は16年、それを超えれば長期間運転するほど

電力会社は儲かるため、老朽化の危険性を指摘する声を無視。関電は「60年を超えても運転できる」としています。

3 危険な核燃料サイクルの強行

「もんじゅ」やプルサーマルはストップを

見通しが立たず世界各国では中止されている高速増殖炉である「もんじゅ」の再稼働や、危険なプルトニウム混合燃料を使うプルサーマル運

転など、プルトニウム核燃料サイクルが進められています。

4 全くメドが立っていない使用済み核燃料の処理

福井県の原発群全体で9000体近い使用済み核燃料が発電所に保管されていて、極めて危険です。その処理のメドが全く立たないまま、原子力

発電を続けることは、人類の未来に大きな負の遺産を残すことであり「トイレのないマンション」と言われるとおりです。

久美浜や舞鶴、宮津の原発計画をストップさせ、安全対策を一貫して追求してきた府会議員団

1975年に明らかになった関電の久美浜原発計画やその後発覚した舞鶴、宮津での建設計画を住民の皆さんとともにストップさせました。原発関連の質問や発言はこの15年間で30回以上。

危険な原発ストップを求めてきました。

高浜原発の調査を行う府議員団 2007年8月



若狭湾に大きな地震や津波が発生しないというのはそれこそ神話

5月23日に開かれた参議院行政監視委員会で、地震学の神戸大学石橋克彦名誉教授は、「若狭湾沿岸にある原発は危険だ。老朽化が進んだ原子炉が多い。大規模地震の空白域に原発が建っている。歴史的にも大地震が多数発生しており、若狭湾に大きな地震や津波が発生しないというのはそれこそ神話だ」と警鐘を鳴らしました。

津波の歴史資料を無視 関西電力

関西電力は、福島第一原発の事故後も、舞鶴市や綾部市の議会で「若狭湾には大きな津波が発生しない。文献でもない」と説明し、住民向けの広報誌でも宣伝してきました。しかし、京都の吉田神社の宮司による第一級の歴史資料である「兼見卿記」に1586年の「天正大地震」による若狭湾を含む沿岸での津波による大被害が記載されていることを知りながら、「信用できないもの」として検証しなかったことが判明。まさに貞観地震の歴史を無視した福島原発事故を想起させるものです。

